
岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 浦 山 朋 征
学 校 住 所 高 山 市 千 島 町 2 9 1 番 地 電 話 0577-32-0418

1 会議の名称 令和元年度学校運営協議会による会議（第2回）

2 会議の構成 委 員

中野谷 康 司	高山市教育長
石 原 嘉 和	高山市立日枝中学校校長
桐 谷 一 夫	高山市立花里小学校校長
中 垣 満	本校育友会会長
平 野 洋 二	千島町町内会副会長 *欠席
小屋垣内 浩之	学校評議員 (小屋垣内農園 (自営))
山 下 恵美子	学校評議員 (山下提灯 (自営))
横 谷 政 恵	学校評議員 (理容こいど (理容師))
稲 野 千賀子	地区代表
岡 田 梅 代	地区代表

(順不同)

学校側	浦 山 朋 征	校長
	藤 守 学	教頭 (司会)
	和 仁 崇 幸	事務長
	岩 島 義 則	教務主任
	上垣内 忠	生徒指導主事
	門 前 雅 人	進路指導部長 (記録)
	川 上 登	工業部長

3 会議の目的 「岐阜県立における学校運営協議会の設置等に関する規則」に基づき、令和元年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和元年11月12日(火) 14:30~16:20 高山工業高等学校(会議室)
委員9名と学校側7名が出席

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校長挨拶

(2) 高山デンバー文化交流プロジェクトの報告

令和元年10月15日(火)~21(月)にアメリカ・コロラド州デンバー市にて55年前に高山市から寄贈された屋台が経年劣化のため、来年迎える「高山・デンバー姉妹都市提携60周年記念事業」に向け修繕を行った生徒4名が報告を行った。

(3) 会長挨拶

(4) 前期までの本校の教育活動(現状と課題)中間報告

教 頭 : ①本年度前期自己評価

資料に基づき、取組状況・実践内容及び成果と課題を説明。ただし、詳細については各分掌長より説明。

②保護者・学校運営協議会委員及び生徒を対象としたアンケート結果資料に基づき、特に低い評価の項目と今後の課題、取組について説明。いずれも保護者に周知されていないところがあるので、その点について工夫していく。

各分掌長より、「指導の重点と自己評価」及び各分掌別の資料に基づいて説明。

教 務 部：今年度新たに ICT 機器が導入され、職員研修を行った。その結果、ほとんどの教員がその機器を使って授業をしている。「生徒実態調査」によると 80%以上の生徒が授業を理解しているが、1日の家庭学習時間が少ない生徒もおり、家庭学習習慣が定着していない。

生徒指導部：交通事故、遅刻、いじめ、問題行動の件数と内容が報告された。いずれにしても迅速な情報共有と対応が重要で、職員全体でこのことを心がけて指導にあたっている。今年度新たに入学生を対象に入学式直後に「身だしなみセミナー」を実施した。校則の改定と制服のマイナーチェンジにも取り組んでいる。

進路指導部：本年度の求人倍率は1.2倍であり、好調である。就職希望者は全体の80%でそのうちの93%内定した（10月末現在）。地元就職率は昨年度就職者の50%であったが、今年度37%とかなり下がった。進学希望者は全体の20%であり、これから受験に向かう。

工 業 部：地域貢献活動にも取り組んでいるが、本校の工業科の魅力が、外部に認知されていないのではないかと。また、学力差のある生徒に対して個に応じた指導が行き届かず、力を伸ばし切れていない。今後、これらの課題を解決して行きたい。

(5) 協議 「本年度前期の取り組みに対する御感想や御意見」

意見 1 高山市の就職者の減少は、高山市在住の生徒が減少したことによるものなのか。

学 校 そういった統計は、調査していない。ただ、減少の理由として、県外企業は、給料、年間休日、福利厚生等の条件がよく、また都会に憧れる生徒も多いことが考えられる。

意見 2 制服が変わると譲ってもらう生徒にとっては、お金が掛かるのではないかと。

学 校 現在、検討しているのはマイナーチェンジで、並べてみても良く見ないと分からない程度である。ただ、素材も着心地も良くなっており、30年前のデザインなので少し変えたいと考えている。

意見 3 今年度、女子のネクタイをリボンに変えたのはよい。

学 校 ネクタイよりリボンの方が安価である。

意見 4 花里小学校とのものづくり体験交流は5年目となり他の事業と比べて長い、この事業に対する効果はどんなものか。

学 校 今年度初めて「新入生の進路選択に関するアンケート」を実施した結果、この交流事業を覚えている生徒は多かった。

意見 5 交通事故が多いのは帰りの時間か。

- 学 校 一番多いのは登校時である。やはり、余裕がなく、慌てるのではないか。
- 意見6 中学校のように通学路があるのか。
- 学 校 中学校では通学路となっているかもしれないが、高校は通学路というものはない。
- 意見7 報告のあったデンバーでの取り組みは、一般の方が取り組みを聞く機会はあるのか。そのような機会を設けて、その際に募金を行えば、募金が集まり、来年度生徒が参加できるのではないか。
- 学 校 募金は高山市がすでに行っている。

(6) 今後の高山工業高校の在り方について

① 校長より説明

飛騨地区の卒業予定者数は、今高校一年生は1373名、中3は1281名と1300名台を切り1200名台に入ってきた。前年比で92名の減少である。この状況を受けて来年度入学定員が機械、電気、電子機械については8名ずつの減となり、各学科32名ずつ、建築インテリア科が40名の計136名となるが4学科は維持されている。今後、小学校3年生が本校に入学する令和8年度までには、学科改編も必要となる可能性がある。これらを踏まえて、今後の本校の在り方についてご意見をいただきたい。

② このことに対する協議

- 意見1 近隣の中学3年生に高校を選ぶ際の基準を聞くと自分が入りたい部活動が強いかどうかで決めるとのことであった。
- 意見2 髪形やカッターシャツの中のシャツの色についてのきまりが厳しいのではないか。
- 意見3 髪形や服装についてはメリハリが大切だと思う。「実社会ではその恰好は通用しない」ということを教えるのも必要ではないか。
- 意見4 飛騨地区の子供が減っている。また、飛騨地区外の高校へ進学する生徒も非常に多くなっている。地区外に出ていく生徒を食い止める方策を中学校と高校が一緒になって考えていかなければならない。高山工業高校には地場産業がもっと盛んになるような教育活動をお願いしたい。
- 意見5 工業高校のブランド化で魅力を高めることが必要ではないか。
- 意見6 デンバーへの海外派遣を拡充できれば、応募者が増えるのではないか。
- 学 校 県に生徒への補助をずっとお願いしているが、海外派遣を行う学校の指定をこれまでに実績のない本校が受けるのはなかなか難しい。
- 意見7 外国人生徒が高山工業高校への入学を希望した場合、工業高校に入って学習することは難しいか。
- 学 校 実習は工作機械を扱うため危険が伴う。日本語が十分理解できない場合、安全に指導ができるか問題となる。

6 会議のまとめ

本日のご意見とともに今後の学校運営に生かしていく。

第3回は、令和2年2月1日（土）15時30分からの開催を予定している。

※当日は卒業作品展